

## <対策のポイント>

米の需要減により米価が低迷する一方、肥料等の生産資材価格の高騰等によって、稲作農業は大変厳しい状況に置かれています。今後、輸出等の新たな需要への的確な対応を通じて需要拡大を図りつつ、農業者の所得を確保し、稲作農業の体質を強化するため、米の超低コスト生産、米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向け、加速させる環境の整備及び取組を支援します。

## <事業目標>

- 担い手の米生産コスト（9,600円/60kg [令和5年度まで]）
- 米の需要拡大（消費量51kg/年・人 [令和12年度]）

## <事業の内容>

### 1. 米の超低コスト生産支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

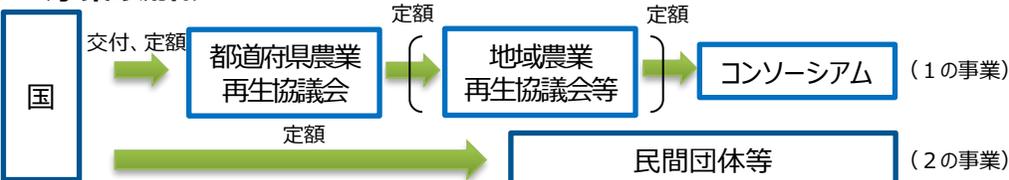
（補助率：定額（上限1,000万円/コンソーシアム））

- ※ 1 事業実施期間は最長3年間とします。
- ※ 2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

### 2. 米の付加価値向上・流通合理化支援

多様な消費者・実需者ニーズに適應するため、**スマート・オコメ・チェーンを活用した米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向けた取組等を支援**します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 米の超低コスト生産支援



### <超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減の技術等実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

### 米の付加価値向上・流通合理化支援

#### 米の付加価値向上・流通合理化モデルの創出



食味の情報や穀粒判別器等から得られる情報を活用した米の付加価値向上、流通合理化のモデル実証や調査等

【お問い合わせ先】 農産局穀物課 1の事業：03-6744-2108  
2の事業：03-6744-2184

# 米の生産コスト低減に向けた取組について（令和4年度実証事業）

令和4年度『稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業』取組事例

- 事業実施主体：愛知県米トータル生産コスト低減対策協議会（県、4市町村、JA等）
  - 農業者：5経営体
  - 水稲作付面積：131ha（R4年度）

**コスト低減効果：R2年度 14,082円/60kg ⇒ R4年度 11,322円/60kg（▲2,760円/60kg）**

※肥料高騰対策による補てん金は未反映、農機レンタル分は減価償却費として算入。

**R6年度 9,600円/60kg（目標）**

- 主な取組内容【R4年度】：

## 技術実証に係る取組

『V溝直播＋止水板＋水位センサー』

⇒育苗時間削減、作期分散による生産性向上、  
水管理見回り回数減少による労働費の削減  
(慣行：3.9回/週 ⇒ 水位センサ設置後：2.0回/週)



自動開閉装置  
も導入予定。

『AgriLook（生育予測システム）＋衛星画像診断』による適所施肥

⇒生育不良圃場の把握により、追肥ほ場では、単収が向上

コシヒカリ 追肥なし：508kg/10a、追肥あり：570kg/10a  
あいちのかおり 追肥なし：503kg/10a、追肥あり：612kg/10a



## 生産コスト分析、人材育成に係る取組

コンサルタントによる

- ✓ コスト・経営分析
- ✓ コスト低減・経営改善指導研修

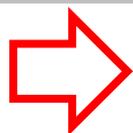
生産者の

コスト意識向上

※コンサル料を出荷数量で割ると230円/60kg  
(上記の全算入コストには含めず)

## 生産コスト低減の検討、成果普及に係る取組

低コスト生産のための改善検討会の開催  
取組成果報告会の開催



米の生産コスト低減により、

- 主食用米の米価変動に耐え得る生産
- 輸出等の新市場開拓用米の可能性を拡大

- 今後の課題

主食用米の生産を集約し、他作物の生産を拡大